

産地戦略

実施期間 令和7～11年度

実施主体 八千代町グリーン＆スマート農業研究会
都道府県 茨城県
対象地域 八千代町
対象品目 コカブ・ダイコン



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

該当するものに●を付してください。

化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
● 化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	● 温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

- 既存のトラクターに自動操舵システムを導入し、マルチ展張作業時間を短縮する。2 堆肥に含まれる成分での化学肥料一部代替による安定栽培を実現するために、ブレンドソー及び自動操舵システムの導入により、堆肥重複散布の防止を図り、ほ場に均一に堆肥を散布する。3 生分解性マルチを導入することで、作業時間を短縮する。
- これら3つを組み合わせ、グリーンな栽培マニュアルを作成し、グリーンな栽培体系の普及を促進する。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名		収穫							ほ場準備		播		
ポリマルチ、ブロードキャスターによる堆肥散布		マルチはがし							堆肥散布				

グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名		収穫							ほ場準備		播		
生分解性マルチ・ブレンドソー＋自動操舵による堆肥散布		マルチはがし							堆肥散布				

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R6	目標R11	備考
対象品目の作付面積（ha）	13	▶ 24	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	5.5	▶ 22	
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	5.5	▶ 22	
省力化に資する技術の取組面積（ha）	5.5	▶ 22	

取り入れる技術に応じて取組面積の目標等が異なる場合は、行を追加する等で分かるように記載してください。

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境 省力	化学肥料による元肥	▶ ブレンドソワ－導入により、堆肥を元肥として利用	化学肥料低減
省力	ポリマルチでの栽培	▶ 生分解性マルチ使用	マルチの片づけ時間低減
省力	自動操舵システムによらない堆肥散布・マルチ展張	▶ 自動操舵による堆肥散布・マルチ展張	作業時間低減

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境	化学肥料の投入量	7	▶ 3.5	化学由来N 7kg/10a → 3.5kg/10a
省力	マルチ片付け時間	310	▶ 200	310分→200分（全作型総計）
省力	マルチ展張時間の低減	130	▶ 70	130分→70分
			▶	

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）
* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

当協議会メンバーへの情報提供に加えて、地域の農業者が集まる会合等を活用して情報共有を行う他、現地での技術指導を行い推進を図っていく予定。

関係者の役割

関係者名	結城地域農業改良普及センター			
役割	導入効果の確認			

事業を活用して導入した農業機械等の活用面積の目標

農業機械名	作業内容	活用面積（R6）（ha）	備考
自動操舵システム、ブレンドソワ－	堆肥散布・マルチ展張	5	

その他

